



### 日本と母国の絆を深める懸け橋として ～JETAA オセアニア地域会議に参加して見えた交流の輪～

(一財)自治体国際化協会シドニー事務所 所長補佐 棟方 守仁 (青森県黒石市派遣)

#### 国際交流を支える JETAA のネットワーク

2024年10月19日から20日にかけて、JETAA (元JET参加者の会) オセアニア地域会議がニュージーランド (NZ) のクライストチャーチで開催されました。JETAAはJETプログラム (語学指導等を行う外国青年招致事業) の経験者が国際的なネットワークを維持し、日本とのつながりを深めるために結成された組織です。オセアニア地域にはオーストラリアに5つ、NZに3つのJETAA支部があります。JETプログラムが始まった1987年から2023年まで、豪州から約4,900人、NZから約3,500人が参加しており、さまざまな場面でJETプログラムの発展に貢献してきました。会議には、各支部の代表者と豪州・NZの代表者に加え、シンガポール支部の代表者も参加し、各支部の活動報告をしたり日本とのつながりを維持する方法やJETプログラム終了後の課題などについて精力的な意見交換を行いました。さらに、クリアシドニー事務所職員も会議に参加し、今年度の活動内容について説明するとともに、議論にも積極的に加わり、支部間の情報共有や活動の支援について意見を交わしました。



JETAA オセアニア地域会議 2024 参加者

#### 支部活動と連携強化

各支部の活動報告では、花見や祭りなどの日本に関するイベントの主催や参加など多岐にわたる内容が紹介されました。支部の多くが共通して抱えている課題として、帰国後に母国の文化に再適応する過程の逆カルチャーショックや日本とのつながりを維持する難しさなどが挙げられました。日本での生活がもたらす影響が大きいことから、帰国後も日本的な価値観が自身の中に残り続け、それが母国での再適応に影響を与えるケースも多いとの意見が出ました。ディスカッションでは、こうした課題に対し、支部のメンバーが定期的に集まって相談する場を提供するなどの実践的な対策や工夫が共有されました。参加者からは、支部ごとの取り組みが励みに



各支部による活動報告



クリアシドニー事務所職員による活動報告

なっている様子が見て取れるとともに、今後も互いにサポートし合いながら活動を続けていく意欲が強く感じられました。

## 異文化理解の価値を語る

1990年代と2000年代に2度にわたってJETプログラムに参加したアンドリュー・マックジョージ氏による講演も会議参加者の議論に負けず劣らず印象に残る内容でした。現在クライストチャーチ・倉敷姉妹都市委員会、地域交流に尽力するアンドリュー氏は、異文化適応や国際的な橋渡しの重要性について、豊富な経験を交えてJETAAメンバーに向けて熱く語りました。特に、母国で生活していると得がたい多文化間での学びや気づきが、日本での生活を通じて培われたという点が印象的でした。講演の内容に共感した参加者からは、「日本での経験が個人としての成長を促し、帰国後の人生にも大きな影響を与えている」「JETプログラムへの参加を通じて草の根の交流を学び、その重要性を今なお実感している」との声が聞かれました。こうした意見を聞かなかで、JETプログラムは単なる語学指導や国際交流活動業務への従事ではなく、異文化理解や自分自身の成長につながる貴重な経験であると改めて感じました。



自身の経験を生き生きと語るアンドリュー・マックジョージ氏

## JET 絆大使の役割を胸に

任用期間を終了したJET参加者は、プログラム終了後も日本と母国との友好関係推進の「絆」として活躍することを期待され、総務省から「JET 絆大使」に任命されます。今回の会議でも、JET経験者が、このJET 絆大使として日本文化を広めていく誇りと責任をもって

活動している様子がかえりました。そして、彼らが、JET 絆大使であることを人生の一部として大切に、2国間の絆を豊かに育む役割に強い意義を見出していることが感じられました。



JETプログラム終了後の課題について話し合う会議参加者



議論の結果を発表するグループの代表者たち

## 今後の支援と期待を込めて

JETプログラムは、参加者に日本の学校や自治体での業務を通じて日本社会を直接体験し、理解を深める貴重な機会を提供するものです。私は2023年度東京本部でJET参加者たちの活動現場を視察する機会がありましたが、学校や自治体と目標を共有し、彼ら自身も自身の役割を全うしようと努力する姿が印象に残っています。今回の会議参加者も、こうした経験が、日本と母国の懸け橋として情熱をもって活動する原動力になっていると思わずにはいられませんでした。今回の会議は、JETAAメンバーたちがそれぞれの地域社会で日本との懸け橋として活動を続ける意義を再認識する貴重な機会となりました。今後も、私はもちろん、クレアシドニー事務所は、JETAAの活動が一層発展するよう引き続き支援してまいります。

※写真撮影者：Julius Pang（写真家・元北九州市ALT）